

ハ、エクスカージョン案内記

(道東班)

北海道大会最後の見学旅行道東班は総勢70名、参加者は九州から北海道まで全国にわたり、年齢は25才から70才、一行の中に女性2人が加わり、これから行く根室の端まで道中無事帰れるだろうかと云う役員一同不安を胸に8月30日快晴に恵まれて札幌テレビ塔横を午前8時出発、道東班2台、近郊班1台計3台のバスはまず羊ヶ丘の農業試験場に立ち寄り、車中から場内を見学、ここから近郊班と分離、道東班2台のバスは先導車の水先案内で第1日目の目的地糠平温泉へ。途中車窓から太平洋岸沿いに日高の競馬牧場を眺め一行は早くも北海道の広さに驚き、草地の多いことに目を見張つたようである。日勝峠は一望千里、峠は天気だけがごちそうとはこの事、しばしその景観を眺め、糠平温泉到着6時、1日目の行程300軒、一行は北海道の広さと初日の物めずらしさも手伝つてか疲れも見せず、地元上士幌町の歓迎に感謝し第1日目の全日程を無事終了。翌31日小雨の中糠平温泉を出発、十勝中部大規模草地を見学、小雨の中その広さと、立派に生育した牧草に驚き熱心に現地関係者との討論が続ぎ、予定時間を30分オーバーして大規模草地を出発、日本酪農のメツカ根釧平野へとバスはひた走り。ここから農業も一変して水田はすつかり姿を消し、畑作物と変り、そして牧草が増し、車窓から見える牛の数も進むにつれて増加、一行の興味とソロバン道路の乗り心地に居眠りの暇もなく2日目の宿泊地養老牛温泉に到着。話に聞いた北海道の温泉だと云つて大喜こび、おまけに地元関係者の大歓迎に感激、花咲ガニを腹一杯、これだけで北海道に来た甲斐あつたとはある食いしん坊の弁。旅行も2日目そろそろ疲れも出、水のせせらぎの音を聞き静かな根室の夜を安眠。翌9月1日また小雨、車窓から見えるものは草地また草地、開場台から望む根釧平野の広さと肌を感じる寒さに異国にいるかのような錯覚に捕われたようであつた。尾岱沼のエビを腹一杯ごちそうになり、根釧の誇る床丹パイロットファームを進むにつれ一行は真の草地酪農の姿を目の前に見、イモと牛乳をほおぼりながらここまでに至つた開拓者の苦勞話に感激するとともに、草地研究がこれからどんなに大きな意義を持つかを感じ取つたようである。行けども行けども草地また草地と何の変化もない車窓の眺めを食い入るように見る姿に同乗役員は本当にここまで来て良かったと自己満足した。根釧見ずして北海道の草地酪農を語るなかれと一行身にしみて感じたようでもあつた。パイロットファームを後にこれから観光を加えた行程、心配した摩周湖はボツカリとその姿を見せ一行の疲れを薄れさし、これで道東旅行の目的は大部分達せられた。暗雲低く小雨で視界ゼロの美幌峠はその高さを誇るには絶好の天気だつたかもしれない。幸い美幌峠を越えて天気は快腹、北見の畑作、稲作の北限、そしてハツカの栽培、その中に伸びゆく酪農の姿もまた一行には感ずる何かがあつたようである。この旅行最後の宿泊地温根湯での一夜を過ごし、2日は快晴に恵まれた石北峠、層雲峡の景観を眺め、道東の旅も終りに近く、滝川畜産試験場でのジギスカンナベはこの旅行のサヨナラコンパにふさわしく楽しい思い出の一つとなつたであろう。札幌到着予定通り5時丁度、全員無事元気で4日間延べ1200軒におよぶ道東の旅を終えた。この間バスの運転手

さえ初めてのコースを悪路と小雨の中終始熱心に見学された参加者一同には同乗役員一同本当に感謝したい。この旅行を通じ一行は本当に北海道農業を理解し得たであろうし、その広さと厳しさの中に北海道のもつ草地酪農の意義の大きさを感じ得たようでもあつた。また北海道の草地研究の在り方をも理解できたと思う。一行がこの見学旅行に参加して本当に良かったと云うのが本心であり、その意味から大成功と云つてよかろう。この旅行を支えた力は何といつても行く先々で現地を案内いただいた多くの現地会員各位の労苦と、歓迎いただいた関係町村、団体各位の力でありその組織力と協力体制に一行は驚き、数々の感謝の言葉を残し別れを告げたことを付記したい。最後に一行が残された北海道の一言印象を2、3紹介して一行の感謝の志としたい。

○日本ばなれした草地農業(九州大 西村修一)

○荒ばくとした原野それが根柢と思つてきたきびしい条件の中でみごと拓かれた牧草地を見てただためいきのみ(栃木真田)

○北海道はすばらしかつた。来年は高知の黒い美人がお待ち申しております。

(高知県庁 上久保)

○ノイローゼ、カニ、エビ、ホタテタベスギタ。(名古屋大 菊地正哉)

○北海道の会員の皆様本当にお世話になりました。(畜試 吉山武彦)

(原文のまま)

北海道農業試験場草地開発部

林 満